

友達、仲間の手話

校長 岡村 浩之

12月13日（金）に、生徒会行事「よつば球技大会」が開催されました。種目は、ボッチャ、サウンドテーブルテニス、風船（鈴入り）バレーです。チームは、学部部門が入り混ざった編成になっています。当校は自立教育部門（知的障害のある高校生）の生徒が一番人数が多いため、各チームにもう教育部門とろう教育部門の児童生徒は一人か二人になっています。

大会前日に、もう部門の中学生に「誰と一緒にチームですか」と聞いたところ、何人かの自立部門の生徒の名前を覚えてくれたあと、「もう部門は私一人なんです」と言って少し心配している様子でした。明るい性格の生徒なので、「どうしよう、どうしよう」と言いながら、少し楽しんでいるような表情でした。

この中学生が風船バレーをする場面を見ることができました。「自分たちのチーム全員が風船に触ったら相手コートに返します。みんなで協力して楽しむのが目標です。」の説明のあと、試合が始まりました。背の高い自立の高校生が、味方にパスをするときスパイクみたいになって味方も相手もずっこけるシーンがあったり、手で受けようとしたらタイミングが合わず頭に当たったりと楽しいハプニングの連続です。もう部門の生徒にボールを渡すときはどうしたと、これを読んでくれている皆さんは想像しますか。正解は3段階ありました。まず、生徒の名前を言ってパスをしていました。でもなかなかうまくいきません。手にボールは触れるのですがうまくボールは上がりません。次に、周りの生徒は手渡しをしてくれました。これならその生徒が自分でボールを打つことができます。さて最後はどうなったかという、他の生徒と同じように上に上がったボールを自分の力で打つことができるように、鈴の音が少しでも聞こえるようにと名前を言ってパスをしたあと、周りの生徒が黙って見守ることでした。最後のワンプレイでしたのでうまくはいきませんでした。嬉しい一場面でした。

どのチームも、最初からそれぞれの種目が終わって次の場所への移動の際に小学生や、もう部門の生徒の手を繋ぎ移動していましたが、楽しい時間を共有した子どもたちは最後の閉会式で体育館に戻ってくるときには、そのかたまりは小さくなってみんなくっついて歩いていました。

友達の手話は、右手と左手をギュツと握り体の前で円を描きますが、子どもたちは部門や年齢に関係なく手をギュツと握り体を寄せ合い丸くなって歩いていました。

楽しい楽しい時間でした。生徒会のみんな、すごいぞー！ありがとう！！